

令和7年度活動報告書

団体名	かまいしスクールガーデン
-----	--------------

1. 団体の活動内容

釜石市内に菜園をつくり、子どもたちの「学び」「居場所」「地域とのつながり」を育むことを目的としています。地域の学校やこども園などと連携し、農業体験・食育・環境教育を一体的に提供することで、地域の教育課題の解決と子どもたちの豊かな育ちの支援に取り組んでいます。

主な活動として、①市内小学校での教科連携型農体験（大豆栽培・収穫・加工）②市内こども園での農園づくりと継続的な食農教育を実施しています。いずれも単発のイベントにとどまらず、年間を通じた継続的な関与により子どもたちの学びと成長を支援することを目指し活動しています。

2. 令和7年度の活動内容と成果

○市内小学校 大豆栽培から豆腐作り（全4回）

国語カリキュラム「すがたをかえる大豆」に沿い、実体験と教科書学習を結びつける活動を全4回実施しました。

回	日付	テーマ	主な活動内容
第1回	6月6日	大豆を植えよう	畑の開墾と大豆の種まきの実施。 「大豆は何に姿を変えるのか」を子どもたちと一緒に考え、食や栽培に興味関心を持つきっかけを創出する。
第2回	10月17日	収穫して干そう	収穫・乾燥作業の実施。 多教科との連携を図り、食と学習のつながりを実感する機会を創出する。 算数：種の倍数計算 理科：実が少ない理由の考察 社会：農家の現状・食料の大切さ
第3回	11月17日	昔の道具で脱穀	棒による手作業脱穀と唐箕での選別作業の実施。 「不便さ」から「自分で考える力」を探究するきっかけを創出する。

第 4 回	12月22 日	豆腐作り	自分たちで育てた大豆で豆腐を作りの実施。 種まきから加工までの一貫体験を通して、みんなで 作ってみんなで食べる価値の実感をするきっかけを 創出する。
-------------	------------	------	-------------------------------------------------------------------------------------

【成果】教科書の学習と実体験を結びつけることで、子どもたちが食や農に関心を持つきっかけを創出することができた。自ら栽培した大豆から豆腐をつくるまでの一連のプロセスを経験することで、食に対する多角的な興味関心のきっかけを創出するとともに、生産と消費のつながりを実感させる食育の場を提供することができた。

○市内こども園 農園づくり・食育活動

市内こども園にて年間を通じた農園づくりと食育・環境教育プログラムを実施しました。

	プログラム名	主な活動内容
①	種まき（年齢別）	クラスごとに作物で自分たちで決めて、種まきを実施。 育てる責任感と愛着を育むきっかけを創出する。 年少：トマト・枝豆 年中：ナス・ピーマン 年長：ジャガイモ・人参・大根
②	コンポストづくり	給食の残飯や野菜クズと落ち葉を混ぜたコンポスト作成を実施。 食べ残しが土に生まれ変わる過程を体験し、命の循環と食への関心を育むきっかけを創出する。
③	いのちをいただくということ～いただきますをみんなでかんがよう～	鹿の毛皮・角・骸骨に触れ、五感で生き物の体に触れる体験を実施。「命の循環」や「いただきます」の意味を考えるきっかけを創出する。
④	定期訪問・農園管理	農園の水やり・管理・育成支援、季節に応じた農作業指導を年間39回実施（4月～翌3月）。子どもたちが作物の成長を継続的に観察・体験できる環境を整えた。

【成果】年間を通じた継続支援により、子どもたちの「育てる・観察する・食べる」の循環体験の場として機能した。コンポスト・いのちをかんがえようなど多角的なプログラムを通じ、食育・環境教育・命の教育を実践することができた。

3. 令和8年度の活動内容

令和8年度においても、令和7年度と同様の活動を継続して実施する予定です。

○市内小学校：教科書と体験を連携させた一貫体験活動を継続調整中。（国語カリキュラム「すがたをかえる大豆」との連携等）

また、連携学校の拡大を調整中。

○市内こども園：農園づくりと年間を通じた定期訪問・食農教育を継続予定。新たなプログラムの拡充も検討中。連携こども園の拡大を調整中。

4. 活動写真



市内小学校にて昔の道具で脱穀作業の様子



市内小学校にて豆腐作りの様子



市内こども園での栽培野菜の収穫の様子



市内こども園にて「いのちをかながよう」プログラムの体験の様子